

## 自己評価報告書

平成23年5月16日現在

機関番号：42608

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012年度

課題番号：20530758

研究課題名（和文）ユニバーサルな保育制度の構想と実態に関するロシアと日本の比較・比較史研究

研究課題名（英文）Comparative Historical Study of the Concepts and the Actual Situations of the Universal System of Early Childhood Care and Education in Russia and Japan

研究代表者 村知 稔三（青山学院女子短期大学・子ども学科・教授）

研究者番号：00190926

研究分野：保育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：保育制度、家庭養育、ロシア、日本、フランス

## 1. 研究計画の概要

本研究はつぎの3点を目的とするものである。(1)1930年代以降のロシア保育界の動向を、ユニバーサルな保育制度(希望するどの幼児にも一定水準の保育を無料か廉価で保障できる制度)の構想と実態の交錯に焦点をあてて、追跡する。(2)そこで明らかになる保育制度の様態の特徴を20世紀日本の保育制度のそれと比較する。(3)それらを通して、現代社会に適用可能なユニバーサルな保育制度に関するモデル仮説を構築する。その際、日露両国の保育経験の相対化が必要なので、両国の「参照国」フランスにおける保育制度の歴史的特徴についても掌握する。

## 2. 研究の進捗状況

これまでの3年間に上記の目的のうち主として(1)に、また副次的に(2)に従事してきた。すなわち、日本のロシア研究の中心であるスラブ研究センターを擁する北海道大学を始めとする国内の主要大学の図書館などが所蔵するロシアと日本の保育制度の歴史と現状に関する資料のうち、ロシアについては大半を、日本については多くを閲覧や複写した。そのうえで資料の分析に着手し、その成果、とりわけロシアの保育の歴史と現状から明らかになった同国の保育制度の構想と実態の特徴について、学会や研究会などで報告するとともに、数編の論稿として公表してきた。その要点はつぎのとおりである。

ユニバーサルな保育制度構想のうち「どの幼児にも」という点については、ロシアにおける就園率は1970年代に5割に達し、1980年代後半に7割を超えた。だが、1991年のソ連解体の前後から低下し、1998年に54%まで急落したあと、2008年に59%と上昇し始めてい

る。「一定水準の保育を」という点では、1980年代までに新設された保育施設の大半は国立・公立の施設や、国営企業に付設された施設だった。しかし、ソ連解体後は企業付設の保育施設の多くが閉鎖されたり、公立施設に移管され、全体として水準の低下がめだつ。「無料か廉価で保障する」という点に関しては、1980年代中頃に労働者層などの平均賃金の約5%にあたる金額が保育料として徴収されていたが、ソ連解体後、保育料は園児一人の保育に必要な実費の約20%となり、実質的に高騰している。そのため、未就園児の半数近くの親が「就園させたい」と考えているにもかかわらず、そうできていないことが多く、日本の待機児童に相当する幼児は2009年に園児総数の3分の1に及んでいる。全体として、現代ロシアの保育制度の実態は、その構想から見て、1990年代にかなり後退したものの、21世紀最初の10年間に回復し出している。

## 3. 現在までの達成度

上記の目的に照らした本研究の達成度は「やや遅れている」といえる。その理由として、第1に、必要な資料が、保育の歴史と実態に関するものだけでなく、それに影響を与える人口動態や家族の状況、労働の問題などに関連するものにまで及ぶため、その入手に相当な時間が掛かっている。しかも、本研究は、保育の現状の比較だけでなく、20世紀の保育史の比較も目指しているため、資料がいつそう広範になりがちである。第2に、本研究では、代表者が長く研究としてきたロシアのケースに加えて、研究対象としては新たな日本のケースを加えており、その習熟に若干の時間を要している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

この後の2年間では、基本的に当初の研究計画にもとづき、上記3点の研究目的を追求する。ただ、「参照国」フランスのケースにまで分析が進まず、3点目のモデル仮説が十全なものとならない可能性もある。その際は、日露のケースの比較を徹底化することで仮説の充実を図っていきたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

村知稔三、世紀転換期のロシアにおける「革命」と子ども、青山学院女子短期大学総合文化研究所年報、査読無、第18号、2011年、37～54ページ。

村知稔三、現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題、青山学院女子短期大学紀要、査読無、第64集、2010年、123～139ページ。

村知稔三、現代ロシアの乳幼児の生活と保育、ユーラシア研究、査読有、第43号、2010年、49～55ページ。

村知稔三、世紀転換期における日本とロシアの保育界、幼児の教育、査読有、第109巻第8号、2010年、4～7ページ。

[学会発表] (計1件)

村知稔三、現代ロシアにおける保育改革とその結果、幼児教育史学会動向研究会、2010年12月5日、長野県短期大学。

[図書] (計1件)

村知稔三、日本文教出版、子どもと表現、2009年、64～67ページ。